

青ねぎ収穫機

○作成：令和5年11月

○更新：令和7年7月

ひろしまスマート農業推進協議会

(広島県農業技術課スマート農業推進担当)

- 青ねぎ収穫機を利用することで、人手を要していた収穫の作業時間削減や軽労化が可能です。
- 製品：3、4条刈り電動モータ駆動式収穫機(製造・販売：株式会社ニシザワ)
全長：1,840mm(作業時)1,550mm(格納時)、全幅1,920mm、全高1,320mm、重量：440kg
- 稼働に必要な人員：2名(操縦者1名、補助者1名)

事前検討チェックリスト

- ☑農作業安全のための指針を確認したか。
- ☑作業時間の削減、軽労化など導入目的がはっきりしているか。
- ☑収穫機を生かせるほ場か。
※畝が長く、旋回スペース(2m程度)があると効果が高い。
- ☑作付面積(共同利用含む)は5.6ha以上あるか。
- ☑収穫機の搬送方法について検討したか。
※軽トラックでは搬送できません。
- ☑収穫機に合わせた畝立、植付(定植機の利用を推奨)が可能か。
- ☑倒伏など生育状況によっては、収穫不可。

農作業安全のための指針(平成30年1月19日版)

<http://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/shishin/shishin.htm>

使用上の留意点

- 費用対効果を高めるため、グループ内で共同利用など検討することが望ましい。
- 作付面積5.6haを超えている場合も、ほ場の形状や立地など実際の利用を踏まえた試算を行うこと。

導入効果

- 機械収穫作業は、10人から5人となり、慣行の手作業と比較して33%の削減が可能となった。
- 刈取りは、立ったままできるため、足腰、つま先などへの負担が軽減。

導入前の作業体系	手刈
導入後の作業体系	機械化
効果	収穫時間30%削減
イニシャルコスト	500～550万円(機器代)
ランニングコスト	(電気代、保守費)

導入効果が発揮できない例

- 狭いほ場(面積3a)で利用したため、旋回等に時間がとられ、手刈りの方が早かった。



使用手順

※別途マニュアル有。

香川県HP [hanegi-vol2.pdf \(kagawa.lg.jp\)](#)